

2023年2月9日

ジュニアテニス「レッドクレ育成プロジェクト」
2022-23 NISSHINBO NATIONAL JUNIOR TEAM
南米ジュニアテニスサーキット遠征メンバー決定！

公益財団法人日本テニス協会 同時リリース

日清紡ホールディングスが支援する「レッドクレ育成プロジェクト」（日本テニス協会主催）の南米ジュニアテニスサーキット遠征メンバーに、男子は大岐優斗、富田悠太、女子は齋藤咲良、辻岡史帆の4選手が選ばれました。2月12日に「2022-23 NISSHINBO NATIONAL JUNIOR TEAM」を代表して約1カ月にわたる南米遠征へ出発します。過去2回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で国内合宿に変更したため、3年ぶりの遠征になります。

当社はスポーツ振興による「次代を担うジュニアの育成」を果たすため、2005年から南米ジュニアテニスサーキット遠征を応援しています。現在、男子世界ランキング日本人トップの西岡良仁選手や、先日の国別対抗戦デビスカップで日本代表として活躍した綿貫陽介選手、内田海智選手など、これまでに数々のトッププレーヤーがジュニア時代に南米遠征を経験しています。

「レッドクレ育成プロジェクト 2022-23」は昨年10月にスタートし、男女各3回の国内合宿を行ってきました。ナショナルチームコーチらの指導のもと、16名のジュニア選手がトーナメントを想定した実践練習やトレーニングで、状況に応じた柔軟な対応力や最後まで戦い抜くための基礎体力・精神力を強化してきました。南米遠征メンバーに選ばれた4選手は、世界中から集まるトップジュニアとの試合を通じてフィジカル面やメンタル面のさらなる強化を図り、レッドクレコートが舞台となる全仏オープンジュニアでシングルスベスト4以上を目指します。



「レッドクレ育成プロジェクト」遠征メンバー国内合宿の様子

「レッドクレ育成プロジェクト」は、将来のトップテニスプレーヤーを目指すジュニア選手を対象に国内合宿参加メンバーの中から4名の選手を南米で開催される国際ジュニア大会に派遣するプロジェクトです。南米の大会はクレコートが使

用されるので、普段使用するハードコートよりボールのバウンドが高く、その分スピードが遅くなりラリーが長くなります。ジュニア時代のクレーコートでのハイレベルな試合は、テニス選手にとって重要な体力・戦術・精神を磨く絶好の機会となっています。

日清紡グループは、新たに始まった「レッドクレー育成プロジェクト」を通じて、日本テニス協会が提唱する中長期強化育成プラン「富士山プロジェクト」（世界ランキング Top100 入りする選手の育成・強化等）を応援しています。

◇南米ジュニアテニスサーキット遠征メンバー プロフィール◇

〈男子〉

（世界ランキングは 2023 年 2 月 6 日付）

大岐 優斗

所属：佐土原高校



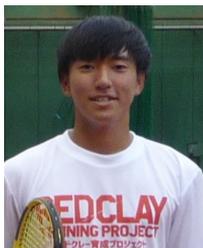
ITF ジュニア世界ランキング：196 位

2022 年ジャパンオープンジュニア（J2）シングルスベスト 4

意気込み：遠征では実力の向上に努めたいと思います。南米のクレーコートで強い選手との試合の経験をして、強くなりたいです。その中で自分の実力をしっかり出して、いい結果を出せるようにしたいです。試合以外でも海外での生活など、成長できることはたくさんあると思います。色々なことを学んで、自分の成長につなげていきたいです。

富田 悠太

所属：ノア・テニスアカデミー神戸垂水



ITF ジュニア世界ランキング：198 位

2022 年全日本ジュニア 16 歳以下シングルス優勝

2022 年ジャパンオープンジュニア（J2）シングルスベスト 4

意気込み：今回の南米遠征では、1 ポイント 1 ポイントがまん強く戦うことを意識し、全仏オープンジュニアに出場できるよう、勝ち上がってポイントを獲得していきたいです。また南米で、強い選手とクレーコートでのタフな試合をこなし、今後世界で活躍するための経験にしていきたいと思います。

〈女子〉

齋藤 咲良

所属：MAT Tennis Academy



ITF ジュニア世界ランキング：6 位

2023 年全豪オープンジュニアダブルス準優勝

2022 年世界スーパージュニア（JA）シングルス・ダブルス優勝

意気込み：クレーコートでの試合でラリー数が多くなると思うので、体力負けをせずに最後まで戦いたいです。色々なショットをゲームの中で使い、ネットでポイントを多く取れるようになりたいです。暑いですが熱中症にならず、またケガもせずに 3 週間を終えたいです。

辻岡 史帆

所属：SYT つきみ野テニススクール



ITF ジュニア世界ランキング：90 位

2022 年ジャパンオープンジュニア（J2）シングルス準優勝、ダブルス優勝

意気込み：経験したことのない環境で、大変なこともたくさんあると思いますが、今の自分の課題でもある、落ち込まずにファイトする、ひとつひとつのことに全力で取り組むことを意識して、悔いのない試合や行動をできるように 3 週間、頑張ります。

以上